

『石崎操日記』

執筆：石崎操

整理：石崎清之、飯倉江里衣、湯川真樹江、尹国花、森巧

凡例

- ・旧字体や異体字、略字、旧かな使い、「鮮人」「鮮女」などの蔑称は、本日記の史料としての性質を考え原文のまま掲載した。
- ・誤字と思われる箇所はそのまま掲載し、「ママ」とした。
- ・句読点、空白、改行は適宜記入した。

本文

新義州駐屯ソ聯軍司令官ノ命令

- 1.日本人所有ノ工場ニ所属スルー一切ノ有形無形ノ財産ニ対シ其ノ管理保管権ヲ平北臨時人民政治委員会ニ引継グコト
- 2.責任者ハ即時引継書ヲ作成ナシ産業部長ニ提出スベシ 但シ未備ナルトキハ数日内ニ提出シテモ之ヲ妨グズ
- 3.倉庫及金庫鍵ハ産業部長ニ引継ギ工場ノ鍵ハ作業ヲ繼續スル限り朝鮮人従業員自治会ニ引継グコト
- 4.日本人従業員ハ従前通り従業ナシ産業部長ノ許可ナクシテ職場ヲ離レルコトヲ得ズ

- 5.工場ノ朝鮮人従業員ハ直ニ自治会ヲ結成ナシ従来通り作業ヲ繼續ナスベシ
- 6.工場ニ事故発生ナシ損害ヲ生ジタルトキハ其責任ハ日本人従業員側ニアリ
- 7.在庫品ノ處分及移動ハ産業部長ノ命令ニヨル
- 8.工場ノ作業ヲ無断中止或ハ休業ナスコトヲ得ズ
- 9.八月十五日以後工場ヨリ物品ヲ持出シ隠匿セルモノアル場合ハ九月五日以内ニ現場ニ返納スベシ 若シ期限ヲ経過シテモ返納セザルモノハ国有物ノ破壊又ハ竊盗罪ヲ犯シタルモノト認メ之ヲ嚴罰ニ處

ス

以上

昭和二十年九月三日午後四時新義州事務所ニ於テ平北臨時人民政治委員会産業部長代理金景場氏ヨリ傳達、九月三日迄ニ引継書作成ヲ約ス。

9/29

午前5時宿舍出發林産会社繫筏場ノ乗船場ニ六時集合嚴重ナ税関検査ノ上 和船永吉丸(17 屯)ニ乗船、浜町 198 名ニテ船内狭ク荷物置場ハ勿論座席モナク窮屈此ノ上ナシ、船体修繕一部未完ノタメ本日出發見合せ一同新義州ニテ船内宿泊ト決定

9/30

本日ヨリ陸行ハ数日間停止トナリタル由ニテ残留者ノ不安一方ナラズ、世話会ニ押寄せ今後ノ生活費ニ付強談中、之ガ前後措置トシテ本日海路出發者一人ニ付百円宛ヲ更ニ残留者生活資金トシテ據出スルコトハナル

食糧 10 日分

現金 200 円

其他荷物トシテハ五点以内ノ下着類雨具等

午後2時出發準備完了、

船團 機械船 4 隻

帆船 7 隻

外ニ警備船 1 隻

團長 道城京一

永吉丸分團長 中山高次

午後3時出帆

午後五時龍巖浦海上警備隊前ニ碇泊

明朝係官臨檢ノ上出帆許可スル由ニテ

船内宿泊、夜中寛野森吉海中ニ隧(ママ)

落シタルモ折柄ノ上ゲ潮ニテ他船ニ救助セラル

10/1

午前八時ヨリ検査、刃物 写真 書類等十二時頃出發

途中洩航ロープノ切断等アリ 鉄山沖ヲ過グル頃漸ク暮色濃厚、船室内立針ノ余地ナク板トマノ上ニテ一夜ヲ明ス

10/2

黄海道沖ニテ夜明ケ

雨雲天ヲ蓋ヒ陰鬱ノ天候

午後ヨリ小雨混リニ南風吹き船ノ進行遅々タリ

長山串ニカハル頃サスガ天下ノ難所ニ加ヘテ風雨漸ク強ク乗員一同船酔ヒ甚ダシ時ニ午後三時、夜ニ入りテ益々風強ク船團ハ航行停止 風静マルヲ待ツコトハナリ、碇ヲ降ス 午後七時、夜半風ハ西ニ変リ益々風浪激シク吾永吉丸モ碇綱ノ切断氣使ハレ帆走準備ノタメ荷物ノ片附ケヲナス

船底ハ浸水甚ダシク「アカ」ノクミ取ニ忙シ

午前一時頃遂ニ吾ガ船ハ難破ノ危険ヲ感シ 単独行動ニテヨリ安全地ニ避難スルコトハ決定

僚船ノ安否不明

10/3

船長此ノ辺ノ地理ニ詳シキ為メ吾船ハ安全地ニ避難スルヲ得タルモ

他船ノ安否氣使ヒツ、到着ヲ待ツ 夜来ノ風未ダ静マラズ依然波高シ、

十二時迄他船ノ到着ヲ待チタシモ到着セズ、吾ガ船ノ單獨潮浦ヘ向ケ出発

午後三時潮浦着 漸ク港内波静カニシテ一同蘇生ノ思ヒ、折柄ノ引潮ニ船ノ周圍ニテ はまぐり拾ヒニ興ジ一人約一升ヲ得タリ、

夜半ノ満潮ヲ利シ潮浦海岸ニ到着 船中宿泊

10/4 晴

遼(ママ)船未ダ到着セス 一昨日来ノ暴風雨ニ事故發生セルモノカ、或ハ吾船ノ行衛不明ノタメソー才索(ママ)ニ日ヲ送りシカ、又ハ豫定ヲ変更シテ甕津ニ直行セルモノカ、兎モアレ吾等ハ一先ツ上陸シテ次ノ満潮ヲ待チ他船ノ到着ナクハ單獨行動ニテ越境ニ衆議一決 午前十時上陸開始、米一合宛ヲ出シ炊出シヲナス。十二時頃沖合ニ僚船ヲ認メ一同歡喜續々入港シテ吾船ノ沖ニ投碇ス

折柄保安署員、ソ軍將校等現場ニ到着、道城團長、杉山工作班長等ト協議ス ソ軍ノ意向トシテハ海州ノ司令部ヲ至(ママ)由新義州司令官ニ電照シタル上ナシデハ上陸許可セズトシテ吾等一旦上陸セルモノモ再ビ乗船ス

食糧漸ク欠乏シテ空腹ヲ感ズ

10/5 晴

上陸ノ許否如何心痛シツ、夜ヲ徹ス

寒サ甚シク睡眠不足ト空腹ノタメ疲労甚ダシ、

午後一時頃才一線トシテ上陸許可セラル直チニ出發用意、思フニ昨夜来ノ本部及工作班ノ工作宜シキヲ得タル為カ、布團、毛布、藥品、米、等ハ持出し禁止、

其他今後不用品ト思ハレルモノハ全部残置スルコト

二時才一分團トシテ出發

トモ子山路ヲヨク歩く、約一里半ニテ國境ニ到着此處ニテ又嚴重ナ税関検査 現金ノ取上ゲモ出タラメナリ、薄暮漸ク進行開始

約一キロニテ三八線ソ軍才一線ニ到着ス之ヨリ約二里 念佛司部落ヲ目指シ山路ヲ歩行、

午前0時頃空腹ト疲労ノ極、漸ク念佛司着直チニ警察ノ世話ニテ倉庫内ニ入り 食事ノ配給ヲ待ツ

折カラ米軍来リ当地ニ停止スルヲ許サズ直チニ之ヨリ3斤茄川迄進行シテ宿泊セヨトノ命令、

食事ノ終ル迄待タレタシト懇願セルモ許サレズ一同再ビ出發用意

途上ニ整列シテ握メシノ配給ヲ受ケ歩キナガラ食ス

午前二時茄川着

米軍ノ身体検査ノ後倉庫内ニ才一分團

380名宿泊

落吾(ママ)者モ少ナカラズ。

10/6 曇

倉庫内コンクリート上敷物ナク寒サト背ノ痛サモ疲労ノ極 一睡ノ内ニ夜明ケ。

夜半米軍派遣隊ヨリサービスガールノ供出ヲ命ゼラレタルモ一同不安ノタメ志願者ナシ、昨夜来ノ空腹 12 時頃漸ク炊出シ握飯一人 2 個(一日分)配給

正午頃ヨリ鮮婦ノ柿、薯等賣リニ来ル者アリ皆争ヒ買フ、

柿 四ヶ 10 円

薯 3ヶ 10 円

餅 1ヶ 5 円

粟 1合 10 円

夕刻念佛ヨリ荷物到着 米軍ノ検査、米軍サービスガール 6 名漸ク出デ自働(ママ)車ニテ宿舍ニ到リ約三時間ニテ帰リタリ、夜 4 名行ク。

後續部隊来ラズ

米軍ハ此所ヨリトラックニテ甕津ニ送り仁川ヨリ船ヲ向ニ来ラス云フモ未ダ本船到来ナク出發出来ズ 或ハトラックノ余猶ナキ為トモ云フ。

10/7 晴

本日モ握飯ニツ一日分ニテ他ハ薯ノ買食ヒニ餓ヲ忍グ、

後續部隊来ラズ 夜間雨降り倉庫雨漏リ甚ダシク睡眠出来ズ 寒サ甚シ、

米軍指令部ヨリ情況視察ニ来ル

10/8

後續分團念佛ニ到着ノ報アリ、本日モ出發出来ズ 徒歩ニテ出發セント志望シタルモ米軍ニテハ単独行動ヲ許サス 後續分團ノ到着ヲ待テトテ無為ニシテ一日ヲ送ル

10/9 晴

後續分團ハ全部念佛ニ昨日到着セル由十時ニ到リ本日午後一時蘇江浦ニ向ケ出發(徒歩)行程(四里)ノ命令アリ、

荷物ハ一個十円ニテ牛車ニ託送

戸羽、トモ子兩人徒歩不能ニ付牛車ニ便乗賃銀百円、

午後二時茄川出發 念佛ニテ本團全部ニ合流、

午後四時念佛出發 各分團長蛇ノ列ヲナシ 乗船場蘇江浦ニ向フ此間約四里。

十二時蘇江着 遙カ沖合ニ本船碇泊スルヲ見ル、午前四時迄ニ乗船不能ノモノハ積残スニ付後續分團ニ連絡員ヲ派ス

米軍当局ヨリ乗船ニ付嚴重ナ命令アリ、命令ニ服從セザルモノハ乗船ヲ拒絕スルト云フ、

浜ニテ米ニ合宛ノ配給ヲ受ケ直ニ炊事、一鍋ヲ食シ更ニ一鍋船中ノ用意トス、

午前五時オ一便ハシゲニ 200 名乗込ミ本船ニ至ル、

本船ハ米上陸用舟艇約 2700 屯ヲ改装セル貨物船ニシモ乗船人員定員約一千名ニ 2700 名ヲ乗ス計画ニテオ一便乗船者ハ船内ノ荷物片附仕役ヲナス、

乗組員ハ船長以下全部日本人ナリ、午前

六時頃迄ニ約 1000 人ヲ乗セ

10/10 晴

退潮ノタメ午後ヲ待ツ、夕刻約 1800 名乗込ミ、船倉及甲板満員、夜ヲ徹ス午後 7 時愈々出帆 明朝十時仁川着ノ予定ノ由、船中ノ食事ハ唐モロコシノ粥約一合程ニテ到底空腹ヲ満スニ足ラズ

10/11 曇後雨

午前 8 時仁川港外着満潮ヲ待ツ、十二時岸壁着 三時上陸開始、直チニ無蓋車約 25 輛ニ乗車、五時仁川發、七時龍山着 折柄降雨一同ヌレ鼠トナル、午後 10 時迄待チタルモ発車セズ ホーム上家ニ雨除シケタルモ寒サ嚴シク空腹甚シケレドモ疲労ノタメ假睡ス 午前四時頃雨中再び乗車命令 直チニ議政府ニ向フ

10/12

午前六時議政府着、容(マ)収(マ)所迄約二軒 議政府檢疫所約二百ノテント 周圍栗林ニ清流アリ風景絶佳、一天幕收容人員 60 名 米人主任 Honer 日本人世話会京城本部ヨリ植木主任、神谷両氏万端ノ世話ヲナシ團ヨリ各役員ヲ指名 先着者安東ヨリ約 350 名アリ 阿部氏ト会ヒ種々便宜ヲ受ケ 300 円借用

新義州組 9 月 17 日陸行組 250 名モ收容中 山田、前川等陸行者ノ苦心モ一方ナラズ

午後コレラ、チブス豫防注射及種痘施行 10 月 7 日新義州發ノ陸行組ハ既ニ開城ニ入りタル情報アリ 長沢氏モ開城ニアリト之等ハ青丹ルートニ回ルモノニシテ歩行四里 最モ楽ナ途ヲ通ツタ思(ママ)ト思ハル。

天幕割当後直ニ全員集合主任 Honer 氏ヨリ幕舎生活ニ対スル注意アリ、尚、植木、神谷両氏ヨリモ詳細ナ注意ヲ受ケ今後約一週間ノ收容所生活ノ概況ヲ説明セラル

尚最近ノ内地事情及帰還者ニ対スル待遇等ニ付種々情況聴取ス 毛布各一枚宛筵ノ配給 筵二枚ニ家族六名寝ル狭シ

10/13

清掃仕役、午前 9 時檢便 收容所食事 朝 ダンゴ 五個

汁 一杯

昼 スープ 腕(ママ)1 杯

夕 ダンゴ 五個

汁 一杯

ダンゴハ小麦ノ挽割リタルモノヲ二弋銅貨大ニナシユデタルモノ、空腹甚ダシク、補給ヲ要ス、売店アリパン、餅、菓子、飴、味噌、カン詰、タバコ、等アレド野菜高価ニシテ腹ヲ満ス得ス

薯ヲ補給シ餓死ヲ忍グ
 ムシ薯 100 匁 12 円
 生薯 〃 10 円
 餡パン 1 ケ 5 円
 リンゴ 8 円
 大根 三本 18 円

10/14

終日空腹ヲ押ヘテ休養、出發以來 16 日
 漸ク栄養不良ノ徴現レタルカ身体ケダルク
 便所ニ行クサヘフラフラトナル、
 蘇江浦ニテ炊残シノ米約四アリ 1 合五
 勺ヲ粥ニシ一家昼食ノ補給トス。

10/15 雨

午前十時全員集合
 ホーナー主任ヨリ本日午後 1 時 600 名出
 發命令ヲナス
 安東及新義州ノ先着者ナリ、残りモ二、
 三日中ニ出發出来ル見込ミ
 夕刻ヨリ雨降り寒サ強シ

10/16

10/17 曇 小雨

午前十時全員集合ホーナー主任ヨリ本日
 午後 0 時 2,000 名出發命令アリ 一同歡
 崑 残り 600 名モ数日中出發ノ予定ノ
 由、
 幕舎別抽籤ノ結果選ニ漏レ残留 600 名ノ
 内トナル、
 十一時出發セルモ列車編成ノ都合ニヨリ
 再び帰り、各自テントニ入ル、

夕頃 前主任 Haretman 氏ノ視察アリ構
 内清掃不充分トテ全員清掃、Old latrine
 ノ土盛ヲナス 食事特配、
 午後六時清掃検査不合格 全員ニテ再ビ
 全般特ニ便所清掃 暗クナリ終了、
 本日出發延期ノ 2000 名ハ明朝午前 6 時
 ト午後 1 時ニ分レ出發ノコトニ發表
 米皆無ニシテ大根ヲ補食ス

10/18 晴

午前八時、仕役
 ダンゴ原料タル製粉工場ニ至ル小麦 70
 俵トラックニ積ミ八時天幕出發 工場ニ
 テ一日製粉作業、昼食ハ粉ヲ支給セラレ
 工場職員ノ家ニテ自炊久シ振ニテ腹一杯
 食スルヲ得タリ、
 残り乾燥シテ各自 7、8 個持ち帰ル、午
 後五時作業終了徒歩ニテ幕舎ニ帰り仕役
 食事ノ特配ヲ受ク
 本日午前五時 800 名 午後一時 1,200 名
 出發

残留 600 名ハ仕役ニ忙シ

戸羽子配給部ヘ仕役 食事支給セラル、
 幕舎 21 号ヨリ 1 号ニ移ル残留者 600 名
 ノテント整理ノタメ

毛布一枚宛ヲ増配セラレ気温モ天候回復
 ト共ニ暖シ

10/19 晴

全員ニテ不用天幕 50 ノ取片附ケ作業、
 相変ラズ構内清掃ヤカマシ 時節柄栗ノ
 落葉掃ケドモ掃ケドモ落葉シテ婦人子供
 モ總出動、戸羽子配給部ノ仕役ニテ特配

ヲ受ケ一家潤フ、秋日和定マリタル為カ
暖カシ

10/20 晴

日曜日ニテ仕役モ低調。

終日為スコトナク腹ノ空クコト少シ 但
シ昨日特配ノダンゴ残りシ大根ト共ニ煮
テ昼食補給。

今日ハ出發出来ルカト思ヒシニ日曜ノ故
カ命令ナシ。

京城ニ邦人 500 名發待期(ママ)中トノ情
報アリ 之ト合流シテ明日ハ出發可能性
大ナルモノ、如シ

米五合配給ヲ受ク ¥45.00

芋 100 匁配給 ¥6.00

米ノ闇相場 1 斗 1.400—

芋 一貫 90.—

大豆 5 合配給 1 升 40 円

10/21 晴

トモ子昨夜ヨリ腹痛(ママ)微ナ下痢
安子清掃仕役。

Old latrine ノ土盛工事ニ終日出役シタル
モ特配ナシ。

本日出發命令ナシ。

吾々 600 名ニテ幕舎ガ空トナルニ依リ仕
役其他ノ都合上出發延期セラル、ニ非ズ
ヤトノ質問ニ対シ植木主任ハソソナ事ハ
決シテ無イ、600 名ノ出發遅延ハ總テ米
軍ノ輸送計画ニ依ルモノニテ軍政廳運輸
局長ノ権現(ママ)ニ付 Horner 主任ヲ通ジ
京城へ連絡出發促進方依頼スルコト、セ
リ トノ事ナリ。

夕食後植木氏ヨリ英字新聞ニ表レタル東
京ノ話題發表アリ。

本日ヨリ幕舎ヘカンテラー一個配給アリ。

10/22 晴

便所ノ清掃及 Old latrine ノ後仕(ママ)未
不充分ノ故ニテ昼ノスープ三時迄配給セ
ラレズ。

三時スープ配給今迄ヨリ濃厚ニシテ分量
多シ、鮮人炊事係ノ不正ニヨリ従来ス
ープモ稀薄ナリシヲ本日米軍直接原料配
給セル為ト云フ。

大豆 6 合配給アリ、イリ豆トス

米一合ニ大根菜ニテ雑炊ヲ作り補食

天幕に落葉の音や秋夜寒

天幕をたゝく落葉や秋夜寒

10/23 晴

米軍兵舎移転ニ仕役

米軍ハ奴隸ノ如ク仕役命令シテ武器、彈
藥其他兵營具ヲトラックニ積降シセシム
其間寸暇モナク急ゲ急ゲトセキ立テラレ
栄養不良ト空腹ニハ少シノ重量品モ仲々
動カズ疲労ノ極午前中ニテ切上ゲ

新義州ニ於ケルソ軍ノ仕役ト比較シテ一
同ソ軍ノ人情味ヲ追憶シナツカシガル
午後再ビ米軍仕役兵舎周圍地均シ工事。
京城世話会ヨリ一人当り 20 円援助金交
附セラル。

明日六時出發ノ由神谷氏ヨリ聞ク、愈々
待望ノ日来ル

一同歡喜出發準備。

10/24
 午前2時起床
 食事、
 毛布、蓆返還、清掃、
 4時30分集合
 5時 出発
 6時15分 議政府發屋根東94名乗、總
 員640名行先不明
 8時 竜山着 釜山聖(ママ)由ト判明
 10時、開城ヨリ約600名着之ト合流
 午後4時開城ヨリノ二番列車約800名到
 着、(12日新義州發)更ニ京城帶(ママ)在
 中ニ二百余名ヲ合シ二千数百名 今夜八時
 釜山向出發ノ予定
 新義州ヨリ世話会幹部モ到着 吾等新義
 州出發ノ際據出セル一人百円ニ対スル返
 還要求ヲナス有志モアリ結局後續者ヨリ
 見舞金一人20円宛配布セラル。
 品川氏夫妻ノ主催ニテホームニテ俳句会
 アリ一句ヲ投シ一点ヲ得。
 高味氏ヨリ金千円受領
 明山君ト会ス暫ク沙里院ニテ連絡員ヲ努
 メタル由、パン、芋等多量ニ恵與ヲ受ケ
 一同久シ振ノ満腹。

落葉 秋の水

議政府キャンプ村 披講 龍山駅
 一九四六、一〇、二四

テント打つ落葉に覚めしむたりけり
 光子
 掃きよせし栗の落葉のいと軽く
 光子

議政府の栗の落葉ハ忘るまじ
 光子
 制札も立ち兵も立ち秋の水
 雲溟
 名山へぬくる経なる秋の水
 雲溟
 月夜道落葉踏みて来るは誰
 孤仙
 落葉搔く人に落葉の一としきり
 千社
 罹災者に絵師あり落葉見て立てり
 千社
 秋水に浸したる手のよごれけり
 千社
 天幕の裾に集まる落葉かな
 井人
 洗はれて大根白し秋の水
 井人
 天幕をたゞく落葉や秋夜寒
 安子
 秋深み天幕をすべる落葉かな
 安子
 落葉敷き祖国を語る幾まどみ

 柿ひさぐ鮮女の顔の紅く映え
 ○疲れ果て夜寒いとはず眠りけ里
 ○国境を越えて想ふや柿の里
 旅疲れ茄川は柿の名所かな
 ○柿甘し祖国の秋や今如何に
 庭前に柿の熟れる警察署
 ○落人の夜寒しのぐや草蓆
 国越へて茄川の柿を味へり
 選 ダッ出ノ歎に柿の甘さかな

はろ／＼と国境越へて柿甘し
敷筵通す夜寒に目覚めけり
○国境を越えて気安き柿の味
波頭白く砕けて秋の海
秋の海ぼら白銀の孤を画く
ぼら跳ぶや復員の船数多あり秋の海

電業連絡所博多西小山町六番地
午後十時龍山發釜山に向フ、27 輛連結
ノ長蛇、

10/25

午前 9 時金泉着 栗、リンゴ
12 時大邱着。
リンゴ一籠 100 円 買入レタル處
中味屑リンゴノミ最後ノ鮮人ノ不道德ヲ
味フ
三時釜山着、埠頭倉庫二棟ニ収容セラ
ル、明日 500 名乗船出来ル由。
毛布一枚丈支給セラレ寝ニ付ク

10/26

午前 11 時乗船準備
船ハ内陸軍ノ上陸用舟艇 S.B.114 号、約
一千屯、
速力 5 浬、博多迄二十四時間ヲ要ス由。
午後 5 時出帆。
海上静隠(ママ)ナルモ船ノ構造上相当援
(ママ)レル

10/27

追風ナリシ為予定ヨリ早ク午後 2 時博多
港外ニ碇泊。

港内外復員船約 30 艘余リ 主トシテ米船
ナルモ心細シ。

檢疫 1 週間ノ予定

10/28

港外ニコレラ發生船モアリ海水使用ヲ禁
止セラル
コレラ予防注射施行
義人議政府出發以来風引キニテ食慾ナク
終日船内ニ寝て元氣衰フ。

10/29

午前中檢便。
パイ缶 3 ボンド宛(大缶 5 人ニ 2 個)配給
アリ、子等毘ぶ。
午後 2 時俳句会
兼題 柿、秋の海
席題 夜寒、
選句
柿熟れて一つ／＼に西日あり 千社
石を置く屋根目の下や柿紅葉 安井
復員の船數多ある秋の海 未僧
旅疲れ茄川の柿に憩ひけり 未僧

夕食後甲板ニテ演藝大会開催
船員側モ多数出演 9 時迄一同歡ヲ喜ス

俳句題 秋晴 コスモス 沙魚
上げ潮や沙魚釣る人の忙しさ
コスモスを分けて訪ね来る寺の客
寺訪へばコスモス答へ僧の出ず
コスモスの咲くにまかして峠茶屋
秋晴れて手拭黒し避難民

との駅もコスモス咲ける満浦線
 コスモスへ投げたひとみや旅やつれ
 帰還者をもてなす夕餐沙魚二つ
 沙魚釣らで秋雲眺めみたりけり

10/30

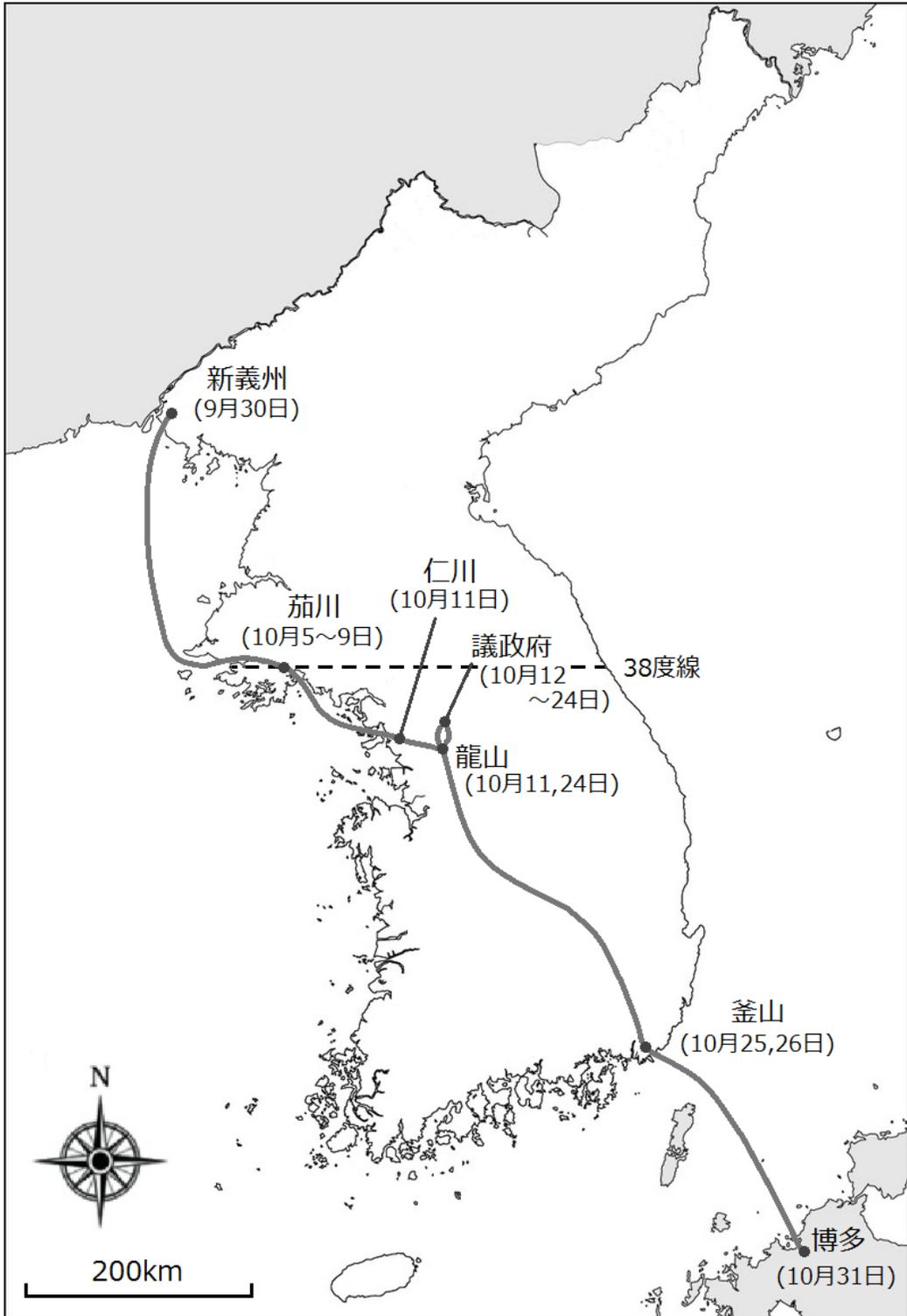
選句
 床下に差し来る潮や沙魚の宿
 千社
 鐵扉固く閉せる宿の秋桜
 安井
 日章旗褪せてマストに秋晴るゝ
 蒼雨
 ドア押してコスモスの庭に下りにけり
 安井
 清流を引ける離宮や秋桜
 千社
 寺訪へばコスモス答へ僧出です
 未僧

援護局ヨリ派遣員上船種々上陸手續ヲ指
 示セラレ乗車券請求、新円交換等ノ準備
 ヲナス、午前七時サロンニテ句会入選、
 句前記ノ通り。

愈々明朝岸壁着ノコトニ決定

10/31

午後 2 時岸壁着。
 明朝七時—九時ニ上陸ト決定、義人依然
 食慾ナシ
 カタール性黄疸ト診察セラレタルモ手当
 方ナシ 万事下船ノ上トス。
 現金交換ニ付、才3 分団取纏メ交換ヲ依
 頼セラル
 總額 45879 円
 本日同ジク接岸ノ復員船アリ。
 呼ビテ問ヘバ 9 月 2 日新義州發ノ途中船
 内コレラ發生ノタメ今日マデ上陸不能ナ
 リシト



地図 石崎一家の引揚げ経路 (作成者: 大野絢也)

石崎家からのメッセージ

「石崎家からのメッセージ」は、石崎家の三男・清之氏および長女・安子氏が数年前に日記を整理した際に記録したものである。研究会では、この記録も引揚げ経験の記憶にまつわる貴重な資料であると考え、日記と共に掲載することにした。

【清之氏】

父、操が他界して40年、母、戸羽が亡くなって23年、妹、トモ子が4年前にそして昨年兄、健男が他界しました。生者必滅とは言え寂しい限りです。

父の死後、昭和19年の東綿繊維工業(株)の手帳に引揚げ当時のメモが残されていた。鉛筆書きで薄れ、また旧字体で判読しにくい物ですが、今回、安子姉の記憶をかり注釈も入れて整理して見ました。

夫々の子供たち孫たちは、戦中、戦後の苦労話はテレビや、映画で見ただけで祖父、祖母、父、母にこんな苦労があったとは思ってもよらないことでしょう。

内容的には面白くも可笑しくもない、ただ、石崎家の歴史の一端が此処にあったことを見てほしいと思います。

このメモには健男兄は出てこない。健

男兄は、昭和19年志願して予科練(海軍飛行予科練習生)に入隊したが、九死に一生を得て本土で終戦を迎えました。

そして、親、妹、弟の引揚げを待っていたのです。

【安子氏】

石崎一家は北朝鮮新義州という中国との国境の町で終戦を迎えました。敗戦ですから当然住んでいた家を追い出され一間のクーリー(労働者)の小屋に住み、引揚げの日まで父は労働に借り出され、私もマッチ工場などに働きに出て、日本に帰れる日まで一年二ヶ月待ちました。

引揚げに際して、リックは帯芯を表に裏地に布団生地等を使って作り、帰国してそれで布団等を作りました。父は桐の板で弁当箱を作り、当時千円札が出たばかりで持ち帰っても果たして使えるかどうか不安がありましたが、家族のことを考え工作してかくし持って帰り、それが使えたので大助かりでした。

義人や清之のパンツのゴムの部分に100円札を入れ無事発見されずに持ち帰れました。リックの肩ひもの部分に縫い込んだお札は途中で食料などに使うことが出来ました。